

発刊にあたって

「市民生活白書」は、本市にとってはじめての試みです。

私は「市政への考え方」で明らかにしたように、当面の重点を、「子供を大切にする市政」と「だれでも住みたくなる都市づくり」の二つにしぼり、その内容として生活環境の整備に力点をおきました。

そうした市政を実現するためには、あらゆる機会をつうじて、市民の声を市政に反映させていく必要があります。同時に、そうした市民の声は、市民生活の現状の客観的・科学的な把握によって裏づけられなければなりません。また、市民生活の正しい現状をつかむことは、これからの市政の指針となるとともに、それを市民に報告することによって、市民がみずからのおかれている現状や、市政のあり方を考える材料を提供することにもなるでしょう。すなわち、それが市民とともに考える市政の方向です。

私は、以上のように考えて、この「市民生活白書」の作成をとりあげました。それは、これまでの市民生活・市政の決算書であると同時に、新しい横浜づくりの基本になるものでもあります。

幸いにして、私のこうした意図が、横浜四大学を中心とした多くの諸先生、及び各関係方面の協力をえて実現されたことを、厚く感謝するとともに、さらに、よりよい白書とするために、皆様のご批判ご協力を願ってやみません。

横浜市長

昭和39年3月

飛鳥田 一雄